

「国土環境・田中研究室懇親会」報告書

背景

本研究室では、「環境計画・創造・保全のプロフェッショナルの卵としての視点」、「学界のみならず業界や行政界からの実学の視点」を事例研究及び卒業研究を通して、養うことを志しています。よって、積極的に産官学のネットワーク作りを行っていくことが望まれます。

今回は、2002年8月の一ヶ月間、ゼミ生である柴田・谷田部が「国土環境株式会社 環境情報研究所」にインターンシップとしてアルバイトを経験し、その際に社員の方々に、田中研究室との懇親会のお話を持ち掛けました。そして、その後の連絡を通じて2002年10月26日(土)16時より、武蔵工業大学環境情報学部横浜キャンパスにある田中研究室・学生室にて国土環境の社員との懇親会を行いました。

目的

環境のプロフェッショナルとして活躍してらっしゃる社員のお話を聞いて、「環境計画・創造・保全のプロフェッショナルの卵としての視点」、「業界からの実学の視点」を養う。

各人の研究室での役割や卒業論文の内容を発表することで、プレゼンテーション能力の向上及び、再確認、明確化など。

各人の研究室での役割や卒業論文の内容を発表し、多様で豊富な経験を持った社員の方から意見を頂き、それぞれの向上に努める機会とする。

環境コンサルタントの仕事の理解を深める

環境コンサルタントの業界研究

就職活動のアドバイスを頂く

形式

2002年10月26日 16時～20時

武蔵工業大学環境情報学部横浜キャンパス 田中研究室学生室

国土環境株式会社社員6名、田中研究室7名(田中先生含む)

司会は、アルバイトとして働き、本懇親会を立案・計画した柴田、谷田部が行った。

OB・OG訪問のような形で、社員の方々への質疑応答等

形式ばらないよう、飲食物を用意したりして、リラックスした雰囲気の中で行われた。

レジュメを用意し、以下に示す通りに行われた。

自己紹介 研究室の紹介 仕事や就職についての質問

内容

環境コンサルタントの大手である「国土環境株式会社」の環境情報研究所の社員の方々をお招きした。社員の方々の大半は環境技術グループという、主に環境アセスメントを扱う部署に勤めており、環境アセスメント等を学んでいる田中研究室の学生にとって非常に好ましいセッティングとなった。また若手の方が中心だったので就職活動についても様々なことを質問した。談笑を交えながら、研究室の活動、ハビタットの視点を取り入れた「マルチ目的植物図鑑」、卒業研究、社員の方々の仕事、就職活動などについてアドバイスやお話を聞かせて頂いた。非常にリラックスした雰囲気の中行われ、双方とも楽しむように懇親会は進んだ。

考察

今回の懇親会で、得られたこと・わかったことを以下のようにまとめました。

<環境コンサルタントの仕事について>

- ・求められる資質や能力は、**体力・好奇心・発想力・コミュニケーション能力**である。
- ・仕事では、「～をやりたい」というような、自らの企画を立案・計画・実行することが求められる。
- ・メーカー等は形式的だが、コンサルでは「何が出来るか」自主性や自分の能力・経験が問われる。逆に考えれば、自分の専門を生かして仕事出来るのである。

<就職活動について>

- ・内定を貰う為のスキルアップも必要だが、それ以上に自分が**やりたいこと**について信念をもって学んでいくことが重要である。それが、結果的に内定に結びつくこととなる。
- ・「環境」といっても、多種多様な環境を扱っている仕事は無数にある。自分が本当にやりたいことについてよく考えた上で、企業だけに限らず、公務員やNGOなど、視野を広く持つべきである。

(個人的な考えであるせいか、多少の不備や誤解等があるかもしれませんが、ご了承下さい。)

<反省点>

- ・学生側の意見が、いまいち活発ではなかった。
- ・ゼミ生のプレゼンテーション能力が問われた。今後ともプレゼンテーション能力の向上を図っていく。
- ・司会進行能力が問われた。懇親会の流れが多少曖昧だったので、終わりの時も慌しくなってしまった。

<感想>

多少不備が見られた懇親会ではあったが、結果的には成功に終わったことに満足しました。環境のブローである社員の方々の生の意見を聞いただけでも貴重であって、また、個人的ではありますが立案・企画をし、メールでの連絡やレジュメ作り、司会進行といったことを通じて多少なりとも自分の糧となったと思います。もちろんこれは、ゼミ生全員に言えることで、これからも積極的にこういった場を設けていくべきだと思いました。非常に有意義な機会となりました。

追伸：懇親会にご参加・ご協力頂いた国土環境株式会社の社員の方々

(6名)と田中先生、ゼミ生(7名)に深く感謝致します。